

CLUB yugi

2012年11月号

花が咲く
たら根を見よ

- 木が大きくなる
木が育つ
枝が出て
葉が繁り
花が咲く

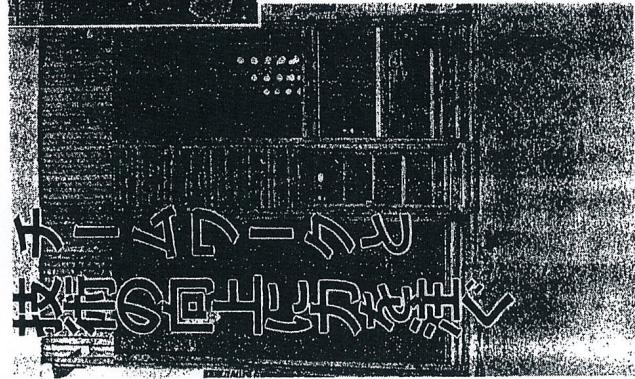
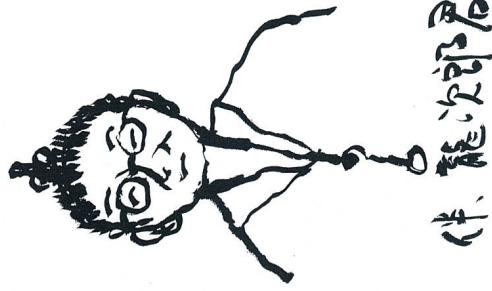
- 私の好きな
人生ドラマの筋書きは
主人公が体を鍛え
ノジと鍛え たしん
強くになって、最後に勝利者
になることである。

- 出会い
人が人生を変える。
人々の出会いには
教える出会いもある。

- 人に負けても
自分に負けない。

- 一流になるとには
常識をこえた
努力がいる
普段の努力ではない
一流にはまれない。
- 潜在能力を引き出せ
自己可能性を信じる。
目標があり
計画があり
実行力があり
運氣があり
泣き笑がある。
- 何か事を起す時
逃げ道を考えながらやると
成功しない
撤退の方便を断ち
そこから又つれ。

1975年 にやうじ
アートの店を開業する
が美容と経営の
お見せた、えである。
10月1日にれいがって
来てから、
懐かしく、うれいわ、を
想い出がた無い、
ことく……。 実業は石井が開業
の店、中打店である。



だが、くるお客様が水商売だ。化粧を
落とした際はひでこ。相手にてき
るかなあ。疲れた』

これが私とゆう美容室との出会いであつた。

そして三日後の三十一日には「お客様にアラシングをやる」。美容学校で習つた通りやつたら、お客様にアラシを取られ自分でやつてしまつた。演出が何とも後に立たない」と書いてある。

その改はくやしくて夜遅くまでサイ

クで練習したものである。シャンブ

ーをやれば背中はピタリ。何をや

つてあ失败ばかり。いやになつた毎日

であつた。

そんな時力づけてくれたのは、我が

師渡辺吉二、平野阿彌先生であつた。

『實本販賣が天才佐々木小次郎に勝て

たのは努力だ。根性強張筋にはね』

この言葉にどれだけすばられたか。

そんな失敗だらけのインターン時代

が終わり、資格試験。

その年ゆう美容室も一社店が六つ

して二社になつた。そして七ヵ月が

過ぎた正月十八日に先生から店長に任

命された。

選時先生が一人もいたのに、インターン

ときはじめじて人間的にも未熟な自分

が、なぜか強引に任された。

その年ゆう美容室も一社店が六つ

して二社になつた。そして七ヵ月が

過ぎた正月十八日に先生から店長に任

命された。

『自分はからおもしろいもの食うな』

『人にいう前に自分でやれ』『魏笑れ

ば頭たれる』。『業界のようなねはり強

さと』かられてあ踏まれても食い付い

たら離さない根性をもて』『他人を養

めるな、自分を養めら』『もっと努力

せし。あせれるな』『そんな忠告をいく

つも受けながら、自分がいたらいいば

かりにスタッフに迷惑を掛けつけ

失敗だらけだった。

人間関係のもつれから、精神的のが

も頭のあつちからだにいくつも作った

ものである。

■主任に要求される要素にはまさにまなものが。本人の性格や店がある立地によって、その要素の内訳も変わってくる。しかし部下を上三に管理して、働きやすい環境をつくるように努めること特に重要な

名古屋市/ビューティーチェーン/かう美容室

主任実戦録 45 龍次郎

修業時代は豪華美容室

をめざして働いた

が三店ある。

山の手に位置する一社店、名古屋一

番の繁華街の米店、そして下町の本店

と、それぞれ「美容と経営」に紹介さ

れたエニトクな特色のサロンである。

私が勤務しているのは、ゆう美容室

タウン時代から現在にいたっている。

日記を引っぱり出し回観してみると

この本店で美にいろいろなできごとが

あつた。『日記』最初にはこんな事が書

いてある。

三月二十九日、美容学校の友達と名

古屋にて十時頃着く。「美容室」不安な

何が?』全く未知の世界。そういう思

いながら友達とヨロヒーとビールを飲み、別れて

別の美容室へ。

この時はわからなかつた)で市電に乗り

二十五円区間内の島原西で降りる。荷

物は重く汗だく。「男は度胸」と自分

にいふ聞かせながらゆう美容室に着

く。腰にかかるのは一緒に運んできた

ギターだけである。着いたらたん白衣

を着て店へ。最初何をやつてほしいのか

わからぬ。まじつちやつた。でも

背、細切れ……?。ああ疲れた。非常

に疲れた。土踏まずが痛い。しかしお

くはやる店。先生は高齢の客と熟人

さういふ洋々の通りで米店とおどり

シテおどりで衣替で「大要迷惑をかけ

ております」。

三月二十九日、八時〇分〇秒ビヨーティエ

ンの美術室本店が開店です。髪を

綴めないシザーズカットとナチュラル

ハイドロカットカラーリングが特長です。

開店後三日間はでつかい粗品を用意し

てスタッフ一同心より、お客様のこ

んなひでまじつかくつわあつた。

後で思えば、声ががれてガラガラ声

でうぶんをあにくつかつたのではないか

つしていたところがええと好評だった

だしきして、スタッフと笑い合つた

のである。

スタッフが一所懸命にやつた宣伝が

きいたのか、開店時には押すな引くな

の大聲。

そんなに忙しい毎日が続く、改装のと

きにできに因縁が起きたのが、

スタッフと二つに二つになることを

思つて、チームワークらしいものがとれて

きな。

それから本店では、先生なしのス